ちびっこ（初版）

私の過去の経験からみなさんにお伝えしたいことがあります。それは「自分に自信をもって頼まれたことは断らずに受けていこう。」ということです。これを学んだ経験をお話しします。

いまから 20 ほど前のことです。以前、フラワーアレンジのお仕事をしていた時ですが、いつもは大体、値段の枠が三千円〜一万五千円くらいが多く、それ以前に、初心者で経験が浅かった私は、先輩達の指導の元で仕事が一通り、出来る様になった頃に、営業の上司の方から「お客様に四万円のお祝いアレンジを頼まれちゃったんだよ〜。作ってみない？」と言われました。私は「四万円なんて、どんな花を使ってもうまくまとまりません」と返事をしたんですが、直属の上司もなかなかのチャレンジャー精神を持つ方だったので、「やってみなさい。何事も経験だから」と背中をポンッと押される様に引き受けました。
仕上げなくてはいけない時間ギリギリまで冷ぞう庫に入っては出てのくり返し。
そんな中、キレイな花ばかりを選ぶのではなくインパクトを残そうと思い何とか完成。
数日後に営業の方から、先方が、とても喜んでいたよ。ありがとう。と言われた事は今後も忘れないと思います。
この経験が今の自分につながり、何ごとも断らずに出来るだけ色々な要望には答えていきたい、チャレンジしてみよう、自分に自信を持とうと思えた出来事です。

ちびっこ

私の過去の経験からみなさんにお伝えしたいことがあります。それは「自分に自信をもって、頼まれたことは断らずに受け~~ていこう。~~よう」ということです。これを学んだ経験をお話しします。

いまから 20 ほど前のことです。以前、フラワーアレンジメントの~~お~~仕事をしてい~~た時ですが、~~ました。私はいつも~~は、~~大体、値段の枠が三千円〜一万五千円くらいで花を生けていました。~~が多く、それ以前に、まだ、~~初心者で経験が浅かった~~私は、~~ためです。先輩~~達たち~~の指導の~~元もと~~で仕事が~~一~~ひと通り~~、出来る~~できる~~様~~ようになった~~頃~~ころ~~に~~、営業の上司の方から声をかけていただきました~~」~~「お客様に四万円のお祝いアレンジを頼まれ~~ちゃったんだよ〜」、作~~たんだけど、つく~~ってみない？」と言われました。私は「四万円なんて、どんな花を使ってもうまくまとまりません」と~~返事をしたん~~ですが、~~言葉を返しました。~~しかし、どうやら直属の上司~~も~~はなかなかのチャレンジャー精神を持つ方だった~~ので~~ようで、「やってみなさい。何事も経験だから」と背中をポンッと押してくれました。私の中にも“それなら、やってみようかな”という気持ちが芽生えてきて、~~される様に引き受けました~~すんなり引き受けました。

仕上げなくてはいけない時間ギリギリまで冷ぞう庫に入っては出てのくり返しです。
~~そんな中、~~キレイな花ばかりを選ぶのではなくインパクトを残そうと思い何とか完成。
※この文に違和感はありますか？
「キレイな花ばかりを選ぶのではなくインパクトを残そうと思い何とか完成。」
この文を短く分けてみます。
【分解】
花束が完成した。／（印象に残るようにしようと）私が思った。／（きれいな花ばかりを）私が選ばなかった。
【再構築】
私は（主題化）、お客さまの印象に残る花束をつくろうと思いました。そこで、きれいな花ばかりではなく、〇〇〇〇〇〇の花も選ぶようにしました。そうして、花束は完成しました。
※時間の流れや手順、思ったことを丁寧に並べていきましょう。

数日後に営業の方から、先方が、とても喜んでいたよ。ありがとう。と言われた事は今後も忘れないと思います。
この経験が~~いま~~今の自分につなが~~り、~~っています。~~何~~なにごとも断らずに~~、出来~~できるだけ~~色々~~いろいろな要望に応えていきいと思う、いまの私の原点です。~~は答えていきたい、~~これが、「自分に自信をもって、頼まれたことは断らずに受けよう」ということを学んだ出出来事です。~~チャレンジしてみよう、自分に自信を持とうと思えた出来事です。~~
※「。（句点）」は、文の終わりに打ちます。
▼
数日後に営業の方から、先方が、とても喜んでいたよ。
これで一文です。
文を分解してみると、
「先方が喜んでいた。」で一文、
「営業の方が（述語不明）」で一文、です。

さらに読み進めると、
「営業の方から　言われた（述語）」がありますが、言われたのは、「私」です。

この文を分解してみましょう。
【分解】
先方が喜んだ。
（数日後に）営業の方が言った。
営業の方がありがとうと言った。
私が言われた。
私が忘れない。
私が思った。

【再構築】
数日後、先方が喜んでいたと、営業の方が私に伝えてくれました。「ありがとう」という営業の方の言葉を、私はいまも忘れていません。
※ちょっと言葉は変わりましたが、内容はこのような感じです。

【再構築その②】
数日後、先方が喜んでいたと、営業の方が私に伝えてくれました。そして、「ありがとう」と言ってくれたのです。私は、その営業の人の言葉をいまもはっきり覚えています。

コメントの追加 [U1]: カッコ内の文が終わっても、「。（句点）」は打ちません。
×「〜です。」
〇「〜です」

コメントの追加 [U2]: フラワーアレンジメントですよね。省略はしません。また、フラワーアレンジメントという言葉をいきなり使って、読み手は理解できるかを考えましょう。必要であれば、「フラワーアレンジメントとは、花、葉、枝を使って、花を生けることです」といった一文を加えます。読み手が理解できそうか、できなさそうか、常に想像しながら書きましょう。

コメントの追加 [U3]: 長くなってきたので、文を分けます。

コメントの追加 [U4]: 上司のキャラクターが重要なら、「〜ちゃったんだよ〜」でもいいかなと思います。しかし、いまの表現だと、一瞬、「なんだ、この上司は？」変なキャラの人かな？と思ってしまいます。後の、「やってみなさい。何事も経験だから」と言ってくれるキャラクターとの統一感がありません。

コメントの追加 [U5]: 話し言葉になっています。

コメントの追加 [U6]: 「も」は累加の「も」。すでにチャレンジャーが紹介されているなら、その人がいて、さらに上司「も」チャレンジャーと言えますが、ほかにチャレンジャーは登場していなさそうです。

コメントの追加 [U7]: 急に冷蔵庫が出てきました。ちびっこにとっては、常識でも、読み手にはそうではありません。「花は、痛まないようにするために、冷蔵庫に保管されています。」といった一文が必要です。